

日時 令和5年9月27日(水)第5校時  
授業場 音楽室

生徒 8年A組 24名  
授業者 齊藤貴文

## 1. 題材名

「日本の歌百選Ⅱ～曲にふさわしい表現を探る」 A表現 ア, イ(ア), ウ(ア)

〔共通事項〕(1)ア速度, 旋律(高低), 強弱

題材『荒城の月』(作詞:土井 晩翠 作曲:滝 廉太郎/編曲:山田 耕筈)

## 2. 題材観・子供観・指導観

本題材は「日本の歌百選Ⅱ～曲にふさわしい表現を探る」とし、歌唱共通教材の一つ「荒城の月」(作詞:土井晩翠/作曲:滝廉太郎 編曲:山田耕筈)を題材として、楽曲の背景と音楽を関わらせながら作者が意図する表現方法を探る学習である。学習指導要領ではA表現 ア, イ(ア), ウ(ア)の内容にあたる題材である。「親子で歌いつごう 日本のうた百選」にも選ばれている楽曲「荒城の月」は、滝廉太郎によって「我が国最初の洋楽音楽の手法」<sup>1</sup>を用いながらもこれまでの日本音階に近い形で作曲された楽曲である。4分の4拍子, 口短調で紡がれたわずか8小節の作品でありながら、情感深く人の世の栄枯盛衰を歌い上げた作品である。また、歌詞の背景には戊辰戦争を経た過去の深い哀しみがあり、この背景を理解することは本楽曲の本質を捉えるためには極めて重要である。しかし、歌詞は文語体で示されており、中学生にとっては他の楽曲に比べても少し難しさを感じるであろう。さらに、この楽曲は原曲よりも原曲として位置づいている山田耕筈による編曲版も有名である。その内容は木村が「山田が瀧の作品の芸術的価値を認めた上で、唱歌の域を脱し、日本歌曲としての作品価値を高めることを意図して改変を行った」<sup>2</sup>と示すように、ピアノ伴奏が付されるとともに、小節の拡大や強弱記号の付記、音の変更などが挙げられる。これらのことから、ただ歌うだけでも十分に価値はあるが、楽曲の背景に触れ、原曲と編曲の違いを通して楽曲に迫ることで当時の人々の感性や価値観に迫ることができる題材であると考えられる。

今回対象となる第8学年の生徒は、これまでの歌唱分野の学習を通して、楽曲の曲想及び音楽の構造との関わりから楽曲にふさわしい表現方法の工夫について追求してきた。楽曲を構成している要素や要素同士の間から表現方法の工夫については概ねの生徒が思いや意図をもつことができている。しかし、コロナ禍において十分に歌唱技術を獲得できていない状況もあり、一部には思いや意図を適切に表現することが難しい生徒もいるのが現状である。本題材の中で、生徒一人ひとりが既習の学びや学び方を発揮するとともに、本題材を通して改めて歌唱活動の中において思いや意図を表現する技能を身に付けることを期待している。

以上より、文語体で生徒にとって身近な楽曲とは言い難い本楽曲の学ぶ意味や価値を強く捉えるために、楽曲の背景と音楽との関わりを3つのキーワード(【日本初!?!】【悲劇】【世界へ】)から繋げ、表現の工夫に迫る活動を設定した。具体的には、旋律の動きから音楽を捉えることに加えて、楽曲の背景や編曲版との比較を通して本題材の本質に迫っていくことを目指す。また、学習活動の最後には楽曲の「ワンポイントメッセージ動画」をグループで作成することを課題とした。ただ歌うだけではなく、生徒自らが具体的なポイントとなる事項について主体的、協働的に楽曲とかかわりながら見出す過程を通して、指導要領が示す「世代を超えて受け継がれる音楽文化の一つ」になることを期待している。

注1 矢島潤平, 藤田光子, 瀧上聖子, 恒松 栖「滝廉太郎『荒城の月』について 音楽-教育-調査研究のクロストーク」別府大学短期大学部紀要 2009, P. 45

注2 木村勢津「歌唱共通教材としての『荒城の月』」愛媛大学教育学部紀要第67巻13-37 2020 P. 17

### 3. 題材の目標

- (1) 「荒城の月」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解し，創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付けている。
- (2) 「荒城の月」の要素や要素同士の関連をキーワードから紐解く学習活動を通して捉え，歌唱表現を創意工夫している。
- (3) 「荒城の月」をキーワードから紐解きながら表現方法を探る活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

### 4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 「荒城の月」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。 <b>技</b> 創意工夫を生かした表現で「荒城の月」を歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，歌唱で表している。	<b>思</b> 「荒城の月」の速度，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，「荒城の月」にふさわしい歌唱表現をどのように表すかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> 「荒城の月」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

### 5. 題材のデザイン（全3時間※ただし3時間目は連続ではない）

主張する手立て

時	○学習活動 ・学習内容	手立て	主張する手立て		
			知・技	思	態
			〈 〉 内は評価方法		
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽曲を通した課題や学習活動の見通しをもつ。</li> <li>・ 作者について・楽曲について</li> <li>○ 旋律の動きや強弱記号，歌詞から楽曲の特徴を捉え，交流し，発表する。</li> <li>・ 旋律の動き，強弱記号，歌詞の内容を把握する。</li> <li>○ 旋律の動きや強弱記号の働きを確認し，交流の中で捉えたことを発表する。</li> <li>・ 旋律の動きを捉え，歌う。</li> <li>○ 楽曲の背景（概要）を理解し，再度歌に取り組み交流し発表する。</li> <li>・ 会津落城の悲劇を理解し，歌う。</li> <li>○ 2つのキーワードから学んだ本時の活動を振り返る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 探索の対象と制約を意識し，問いの深さを決める変数について吟味した深い課題の設定</li> <li>② 本質的な気づきに迫るための発問・問い返しの工夫</li> </ol>	  <b>技</b>	  <b>思</b>	  <b>態</b> (観察) (ロイロノート)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べきてきたことをもとに交流し，発表する。</li> <li>○ 編曲作品の存在から課題を捉え，見通しをもつ。</li> <li>・ 編曲者について</li> <li>○ 原曲と編曲を比較し，違いを意識して歌い比べる。</li> <li>・ 速度や強弱記号などの違い</li> <li>○ 歌詞や背景をより深く表現しようとしているのはどちらの楽曲なのか，考えながら歌唱活動に取り組み，その理由を話し合う。</li> <li>・ 楽曲の背景と音楽の関わりについて</li> <li>○ 3つのキーワードを通した学びを振り返る。</li> </ul>		  <b>知</b> (観察) (ロイロノート)	  <b>思</b> (観察) (ロイロノート)	  <b>態</b> (観察) (ロイロノート)
3	<b>【アウトプット】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで「荒城の月」を歌うときに特に重要なワンポイントメッセージ動画を作成する。</li> </ul>		<b>知</b> <b>技</b>	<b>思</b>	<b>態</b>

6. 本時の目標 (1/3)

楽曲「荒城の月」について関心を持ち、題材全体の課題を捉え、楽曲を歌うために必要な基本的な技能を得るとともに、速度や旋律、強弱が生み出す働きからどのように歌うのかについて思いや意図をもつことができる。

7. 本時のデザイン

主張する手立て

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) ○子供の学習活動	◆留意点 ※評価
<p>1. 日本の音楽文化が西洋化したことを理解し、転換点となった楽曲を通した課題や学習活動の見通しをもつことができる。</p> <p>● 現在の日本の音楽 (J-POP) の元となっているのは、日本と西洋のどちらの文化だと思いますか。 <input type="radio"/> 西洋 </p> <p>● いわゆる昔々からある「日本の音楽・歌」とは何を指すかわかりますか。 △ 昨年やったような… <input type="radio"/> 民謡</p> <p>● 日本の音楽文化が西洋化はいつから始まったんだろう。 <input type="radio"/> 江戸・明治・大正</p> <p>● 今の日本の音楽が西洋化した転換点となった楽曲はどんな曲だと思いますか。</p>	<p>◆ 探索と制約の意識 探索 ・歌うときの重要な視点 制約 ・3つのキーワード ・特に重要な点 とした題材全体の課題</p>
<p>3つのキーワードから、「荒城の月」を歌うときに特に重要なワンポイントメッセージ動画をグループで作成せよ </p>	<p>◆ キーワード 1. 日本初!? 2. 悲劇 3. 世界へ</p>
<p>2. 旋律の動きや強弱記号など、歌詞から楽曲の特徴を捉え、交流し、発表することができる。</p> <p>● 明治34年に発表された楽曲はどんな曲でしょうか。聴いてみましょう。 <input type="radio"/> 暗い (短調)・ゆっくりしている</p> <p>● 歌詞にはどんな特徴がありますか。発音や意味を考えながら読みましょう。 <input type="radio"/> 言葉が難しい (文語体)。意味が分からない。 △ なにか規則性は無いだろうか。 <input type="radio"/> 七五調だ </p> <p>■ 土井晩翠が作った歌詞には次のような意味があります。</p>	<p>◆ 捉える→シェア 発表の流れを適宜とり、発表し易い雰囲気を作成させる。</p>
<p>3. 歌いながら旋律の動きや強弱記号の働きを確認し、交流の中で捉えたことを発表することができる。</p> <p>● 速度や旋律の動き、強弱からはどんなことに気づきますか。音の動きや強弱などに注目しながら歌いましょう。 <input type="radio"/> 伸ばすところが難しい。 <input type="radio"/> 音が低いところが歌いにくい。高低の差が大きいところが難しい。</p>	<p>◆ 初めて旋律の動きの確認になるので、旋律の動きが概ね確認できるよう、生徒の様子を見ながら音の確認を行う。</p>
<p>4. 楽曲の背景 (概要) を理解し、再度歌に取り組み、旋律の動きから作者の思いを考え、交流し発表することができる。</p> <p>● 【悲劇】のカードはどんな内容でしょう。概要を見てみましょう。 <input type="radio"/> 戊辰戦争の内容だ・会津落城の悲劇…</p> <p>● 【悲劇】のカードから得たことと、この曲にはどんな関わりを感じるだろうか。もう一度歌ってみましょう。 <input type="radio"/> 音の動きがますます悲しく感じた。 <input type="radio"/> 歌ってみると悲しい背景と音があるような気がした</p>	<p>※【観察】【カード】 ・「荒城の月」を歌うための基本的な旋律の動きを捉え歌っている。 </p>
<p>5. 2つのキーワードから学んだ本時の活動を振り返る。</p> <p>● 2つのキーワードを通して歌って見ましたが、一番印象に残っていることや今後のポイントになりそうだと思うことにはどんなことがありますか。 <input type="radio"/> 意外と暗い曲だったが、これからどんな思いが込められているのか考えながら歌っていききたい。 <input type="radio"/> 言葉が難しく歌いにくいところもあるが、これから頑張っていきたい。 </p>	<p>・楽曲を構成する要素から、どのように歌うのかについて思いや意図を持っている。 </p>



